



2019年7月29日

日本鉄道労働組合連合会

## JR北労組「第17回定期大会」 成果を糧に組織拡大に全力をあげる決意を確認！

JR北労組は7月27日、札幌市内において「民主化闘争を成し遂げ、安全で働きがいのある職場環境を手に入れ、まともな労使関係を築きあげよう！」とのスローガンの下、第17回定期大会を開催した。

執行部を代表して昆弘美中央執行委員長は、安全の確立、来年度末で支援策の節目を迎えるJR北海道の経営課題と「再生プラン」の実現、組織の拡大と民主化闘争の完遂について見解を述べ、「東日本の組織の動きは必ず北海道にも波及する。私たちの運動で時期を早めるためにも、JR北労組の真価が問われる正念場の1年になる。職場からの組織拡大に全力をあげよう」と力強く呼び掛けた。

大会にはJR連合から荻山市朗会長が出席し「JR産業に働くすべての仲間の総結集」を訴えたほか、連合北海道・出村良平会長、「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」所属の衆議院議員の本田平直、池田まき、神谷裕各氏ら多数の来賓が参加し、それぞれ連帯の挨拶を行った。また、北海道道議の菅原和忠氏、笠木薫氏をはじめ、4月の統一自治体選挙で全員当選を果たした6名の議員団会議所属の地方議員も参加し、政策課題、組織課題の解決に向けて連携して取り組む決意が述べられた。さらに、今月12日に北鉄労を脱退してJR北労組に加入した10代、20代の苗穂工場支部青年組合員2名も参加し、全体で加入を歓迎するとともに、さらなる組織拡大への決意を固め合った。



議案の提案に続き7名の代議員が発言し、職場に根ざした熱心かつ本音の議論が交わされた後、新年度の運動方針を満場一致で決定した。